

- 主題名 結果に責任を持ち誠実に生きる
- 内容項目 A自主、自律、自由と責任
- 教材名・出典 「ネット将棋」(出典：私たちの道徳 中学校 文部科学省)
- ねらい 失敗も含めて自分の言動の結果を素直に受け止め、責任をもって自律的に行動しようとする道徳的実践意欲を育てる。
- 展 開

	学習活動	授業者の発問や指導内容と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1. 教材についての理解。 (5分)	○負けを素直に認めることができなかった経験は？ ○「将棋はどう終わるか知っていますか？」 ・王将をとられたら負ける ・王将の逃げ場がなくなり、次のターンで取られることが確定している時は、負けとなる。 実際の画像(または写真)、羽生善治さんと藤井聡太さんの対局のビデオを見せる。 [説明] 将棋では、一般的な勝敗の決し方は、どちらかが「負けを認める」ことです。この宣言をすることを「投了」といいます。	・問題提起をし、生徒に興味をもたせる。 ・将棋に詳しい生徒がいた場合は聞いてみる。全体に共有する。 ・教材理解の導入とする。この投了の場面がこの後の授業展開で重要になるので、しっかりと意識させる。
展 開	2. 教材を読み、気になる点を見出す。 (10分) ワークシに記入  3. 敏和のツッコミに笑えなかった「僕」は何に気づいたのかを考える。 (15分) ワークシートに記入  4. 人間としてのこれからの生き方について考えを深める。 (15分) ワークシートに記入	○今回のこの「僕」がとった行動で気になる点は何か？ (6分) 3分間(自分で) + 3分間(ペアで) ・勝敗をうやむやにした。 ・相手に失礼な態度。優勢な相手を困らせる。 ・卑怯。自己本位である。 ・自分の負けを素直に認めない。 ・顔の見えない相手ということで、大変軽率な行動をとっている。どうせ見えないからやりやすい。 ・コンピューターの画面を閉じた。 <補助発問> この行動が理解できる人?なぜ? ・知らない人だからどうでもいい、関係がいいと思った。 ・会わないし、見えない相手だから。 ・相手も自分との対戦を軽く見ていると思う。  <中心的な発問> ◎敏和の話を受けて、「僕」は何を考え何に気づいたのか。 ・相手の気持ちを考えず卑怯だった。(反省) ・自分の技量が足りなくて負けた。(反省) ・「負けました」と素直に言うことが、次のステップ。レベルアップにつながる。(自己の客観化・自己評価) ・対局してくれた相手に誠実にすることで、さらに教えてもらいお互いの向上につながる。(自律性の大切さ) ・自分の小ささ、人間の小ささに気がついた。(反省) ・敏和が強くなった理由が分かった。(勝敗の意味・意義) (切り返し→敏和は負けたのにどうしてありがとうと言えるのか)  <主題に迫る発問> ○人は自分の負けや失敗を素直に認められないことがあるけれど、それを受け止めて生きていくには、どうすればよいのだろう。 ・謙虚さ ・自分の結果を受け止める強い心をもつ ・見えない相手でも「負けました」は自分にとって大きく成長するチャンス。 ・見えない相手でも誠実に接する。尊敬する。敬意を示す。 ・負けたのに心から「ありがとう」を言えた。	・生徒が道徳性に関わる問題や課題について主体的に考えることができるよう、教材に描かれた場面や出来事の「気になる点」に着目させ、新たな疑問や発問に繋げていく。 ・「僕」の行動に理解ができる面もあり、それは自然な思いであるため、尊重するが、それを越える意識を持たせながら、中心発問につなげる。 ・行為の責任のなさ、行為の軽視、自分中心の視点を引き出して押さえておく。  ・「僕は笑えなかった」とあるがこのとき、誠実な態度でネット将棋を楽しみ、成長していく敏和と自分自身を重ね合わせた「僕」、は何を考え何に気づいたのか。それを生徒に達し考えさせる。自分自身と真摯に向き合い、弱い心に打ち勝ち、誠実に正しい判断をすることの大切さを考えさせる。  ・ 主題に迫る発問で、負けや失敗を素直に認められない場合があるが、それを受け止めていくためにはどうすればよいのか、人間としての生き方を問う。自分の弱さに目を向け、克服しようとする実践意欲につなげる。
終 末	5. 本時の学習で感じたことや考えたことをまとめる。(5分)	○授業で学んだことや考えたことを振り返らせる。	・ワークシートで振り返りを行う

## ■ 評価

- ①自主的に考え、判断し、誠実に実行しようとする事について、多面的・多角的に考えることができたか。
- ②責任をもって自律的に行動しようとする事について、自分自身との関わりの中で深めていたか。

### ■ 主題設定の理由

私たちは日々様々な場面で考え、判断し、行動している。中学生になると、自分のことは自分で決めたいという気持ちが強まってくる。自分の行動が自分や他人にどのような結果をもたらすかということをきちんと考えて行動する必要がある。どのような小さな行為でも、自ら考えて、自分の意志で決定していく上で自覚が芽生える。

中学一年生では、自分の行動が及ぼす影響について考えてはいるものの、一面的な視点しかもっておらず、多方面から検証した上で正しい判断ができる生徒は少ない。都合が悪くなると自分の失敗をうやむやにしたり、負けた悔しさから逃げたいと思う時期でもある。しかし、負けから学ぶことも多い。自分の技量が足りなくて負けたという自覚は次につながる。それを素直に認め、相手に誠意をもって接するなら、相手からも学べ、結果として自分の成長にもつながる。自分や他の人に誠実であることが、人間としてよりよく生きるための大切な要素であることを自覚させ、よく考えて判断し、自己の行動に対する責任をまっとうする態度を育てたいと思い主題を設定した。

### ■ 指導の工夫

#### 【主題に迫る発問の工夫】

中心発問では、誠実な態度でネット将棋を楽しみ、成長していく敏和と自分自身を重ね合わせたとき、「僕」は何を考え何に気づいたのかを生徒に達し考えさせた。自分自身と真摯に向き合い、弱い心に打ち勝ち、誠実で正しい判断をすることの大切さや、負けを認めることが、次の成長にステップアップすることまで気づかせたい。

その上で、主題に迫る発問で、負けや失敗を素直に認められない場合があるが、それを受け止めていくためにはどうすればよいのか、人間としての生き方を問う。そうしたことを深く考えさせることによって、失敗を自己の責任において、受け止めることができ、相手に対しても「誠実」に接することができ、責任をもって自律的に行動しようとする態度が育つと考えた。

#### 【生徒が主体的に考えるために】

生徒が主体的に考えるために生徒が道徳性に関わる問題や課題について主体的に考えることができるよう、教材の場面場面を取り上げて人物の心情などを捉えさせながらいくのではなく、教材に描かれた場面や出来事の「問題」に着目させ、その解決のための手立てや考える必然性のある問題を考えさせる学習を取り入れた。それによって、生徒はより自分事として考え、主体的な活動になると考える。

#### 【少人数での話し合い活動】

学級全体よりも意見交流をしやすい3～4人グループで話し合い活動を行う。互いに意見の交流を行う事により、多面的・多角的に深く考えさせたい。話し合いが終わったら席をそのままにして発表させることで自分の意見に自信をもって言うことができる。また、ワークシートに「他の意見で参考になったこと」を記入できる欄を設けることで、異なる意見や考え方に触れる中で、新たな価値観を発見したり一面的な考え方から多面的・多角的な考え方へと変化したことを実感できるようにした。

### ■ 板書計画

#### 「ネット将棋」

##### 気になる点

- ・勝敗をうやむやにした。
- ・相手に失礼な態度。優勢な相手を困らせる。
- ・卑怯。自己本位である。
- ・自分の負けを素直に認めない。
- ・顔の見えない相手ということで、大変軽率な行動をとってる。どうせ見えないからやりやすい。
- ・コンピューターの画面を閉じた。

##### <中心的な発問>

敏和の話を受けて、「僕」は何を考え何に気づいたのか。

- ・相手の気持ちを考えず卑怯だった。

- ・「負けました」と素直に言うことが、次のステップ。レベルアップにつながる。
  - ・対局してくれた相手に誠実にすることで、さらに教えてもらいお互いの向上につながる。
  - ・自分の小ささ、人間の小ささに気がついた。
  - ・見えない相手でも「負けました」は自分にとって大きく成長するチャンス。
- <主題に迫る発問>
- 「人は自分の負けや失敗を素直に認められないことがあるけれど、それを受け止めて生きていくには、どうすればよいのだろうか。」
- ・謙虚さ
  - ・自分の結果を受け止める強い心をもつ
  - ・「負けました」は自分にとって大きく成長するチャンスと思う。